

天乃石立神社・一刀石

天乃石立神社(あめのいわちじんじゃ) 延喜式内社。祭神は豊磐間戸命(とよいわどのみこと) 櫛磐間戸命(くしいわまどのみこと)

戸岩谷の谷沿いの突当たりにある。社殿はなく、ご神体は三枚の花崗岩の巨岩で、前立磐というのが高さ6m、幅7.3m、厚さ1.2m、全体で扉の形をしている。

戸岩谷一帯には自然石がたくさんあり、3132柱の神々がそれらの岩に住まれるといわれている。昔、天の岩戸を手力男命(たぢからおのみこと)が押し開いたとき、その扉の一片は天空を飛び、この小柳生の庄にきて留まった。それがこのご神体で、「神戸岩(かんべいわ)」といわれる、神の宮居の戸という意味である。のちに関白頼通がこの地を奈良の春日に寄進したが、そのとき神戸岩が鳴動し、そののちも皇室に慶事のあるごとに鳴動するという。

この天乃石立神社の奥に、10m四方ぐらいの石が、物で割り断ったように二つに分かれてころがっている。一刀石と呼ばれ、こんな話が伝わっている。

昔、柳生宗厳がこの戸岩谷で修行をした。ある時、宗厳が天狗と試合をして一刀のもとに天狗を切り捨てたと思いのほか、その場に横たわっていた大石を、真っ二つに断ち切っていた。またその時の天狗の爪あとも石の面に残されているという。

(参考資料 : 奈良の伝説 日本の伝説13 角川書店)

一刀石と大和高原の巨石伝承

この一刀石にまつわる伝説は長く人々に信じられてきたが、一方でNHKの大河ドラマ「春の坂道」以降は、これは宇宙人と交信するための設備であるとか、鬼が使用する巨大なポストだとか、いろいろな説を唱える人が出てきたのもまた事実である。

そんな折、20世紀も終り近くの1996年、柳生から少し離れた大和高原で一つの事件があった。

山添村のふるさとホール造成中に地中から直径7m、重さ六百トンという巨大な丸い石が出現したのである。最初、工事の邪魔になるというのでダイナマイトで破壊されそうになったが、それが巨石文化の研究者の目にとまり、雑誌やテレビに取り上げられると逆に村のシンボルとして、ふるさとホールの正面に鎮座されることになった。



左 右
柳生 山添村の長寿岩
の 一刀石

人々の関心を集めたのは、柳生の一刀石と同様に自然石にしては、あまりにも造形的すぎるのである。さらにこの石には縦横十文字に走る線が刻まれていることから古代の遺物ではないかと注目され、「長寿岩」と命名された。

それから六年後の2002年、さらに衝撃的な報告が、奈良新聞の一面で報じられた。

「山添に超古代文明」「神野山周辺の巨石郡」「星座を地上に投影」「磐座信仰示す」。これがその日の奈良新聞の見出しである。神野山は円錐形の神奈備山と知られる山添村の一番高い山で、その山を取り囲むように王塚、天狗岩、八畳岩といった巨石が配されており、古代人の聖なる祈りの場ではないかといわれる場所である。付近に「鍋倉溪」という大小の黒い岩石が、溶岩の流れのように累々と連なる奇勝で知られる湯水溪谷がある。これらの黒石は生駒山付近で採掘される角閃班勳石（かくせんはんれいがん）で、山添村ではここだけにしか見られない。

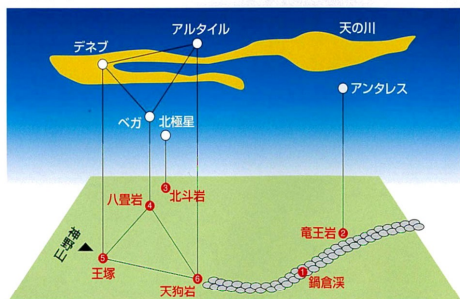
これらの巨石と鍋倉溪の位置関係を詳細に検証した結果、夏の夜空に現れる星々と天の川を地上に反映したもので、王塚、天狗岩、八畳岩がそれぞれ白鳥座のデネブ、琴座のベガ、わし座のアルタイル、鍋倉溪は天の川にあたるというのだ。

この報告は人々を驚かせ、大和高原に点在する巨石は世の注目を集めることとなった。そしてこの大きな謎を解明するために「山添村いわくら研究会」なるものが設立され、翌年秋には全国的に巨石研究に取り組む全国ネットワーク「いわくらサミット」が、山添村の「ふるさとホール」で開催されたのである。

「どうだね、ワトソン君、これでもまだ君は一刀石は柳生宗巖が切ったというのかね」「うーん、どうだろう。ところで、突然出てきたいわくら研究会なるものの『いわくら』というのは何なのだね？」

「磐座だよ。古代人は植物や動物、山や川、巨石など全てのものには神が宿ると考えていた。何千年と年輪を重ねた木や巨大な岩は、神の精霊が降りてくる憑りしりとして尊ばれ、やがて祈りの場として人工的に造られるようになった、それが磐座だよ」「なるほど、三輪山には巨大な磐座があって、山中にも不思議な巨石があるというのは、僕も聞いたことがある。でも柳生と山添村は、随分離れているじゃないか」

鍋倉溪について神野山伝説では、神野山の天狗と青葉山の天狗がけんかをした際、投げつけられた岩が積み重なって出来たという民話はあるが実際どうして出来たのか不明な部分が多い。



そんな状況の中、鍋倉溪と周辺の巨石を計測してみると神野山山頂の王塚が白鳥座のデネブ、八畳岩が琴座のベガ（織り姫）、天狗岩がわし座のアルタイル（ひこぼし）、そして竜王岩がアンタレス、北斗岩が（北極星）にほぼ重なることが解った。

「さあ、そこだよ。最近の『いわくら研究会』の研究によると、笠置山から神野山の間には、一刀石とか北野の岩屋柁形とか明星石といった巨石が、一直線に並んでいるように見えるというのだ。研究会ではこれを「聖なる磐座の道」と呼んでいる」

「なるほど、君は一刀石は柳生宗巖が切ったのではなくて、大和高原の古代人の祈りの場所だったというのだね」

「さあ、それは分からない。しかし柳生宗巖が天狗と勝負をしたと信じている人には、それもまた、尊い歴史的真相だよ」